

## 『事業目的』

---

「有効な治療法が皆無である網膜色素変性症及び難治性の他の網膜変性疾患の治療法確立のため、広く一般市民に対して、その必要性を訴え、研究を支援する基金募集事業、研究への支援事業、法律、制度、施設等の新設、整備及び改廃の働き掛けの支援事業、この病気への理解を深めてもらうための普及啓発事業、他の団体と情報交換及び研究支援等の協同事業を行ない、一日も早く網膜色素変性症等の治療法が確立し、広く世の中の医療及び福祉の充実等に寄与すること」

## 『活動実績』

---

全都道府県眼科医会等関係諸団体・イベント参加者などへのパンフレット・チラシ配布、ならびにホームページ、メールマガジン等をつうじての普及啓発活動に努め、幅広く基金募集事業を展開。一方で、この基金を活用して、治療法研究者への研究助成を JRPS との協同で実施。

### 【2010年度】

◆小沢 洋子氏（慶應義塾大学医学部眼科学教室）

「再生に向けたヒト人工多能性幹細胞を用いた網膜色素変性症の病態解析」

◆町田 繁樹氏（岩手医科大学眼科学教室）

「視細胞変性に伴った網膜中・内層の機能変化」

### 【2011年度】

◆古川 貴久氏（大阪バイオサイエンス研究所）

「網膜色素変性を引き起こす視細胞の繊毛の長さ調節機構の解明」

◆角田 和繁氏（国立病院機構東京医療センター 臨床研究センター視覚生理学研究室）

「オカルト黄斑ジストロフィーの原因解明に向けて」

そのほかに「京都大学 iPS 細胞研究所」への寄付（2010年）、東日本大震災被災大学への早期研究再開を願っての寄付（2011年）を行ないました。また、当基金はこれまでに以下の団体から助成金を頂いています。

損保ジャパン、木下財団、メイスン財団、松翁会、日立ボランティア支援プログラム、三井住友銀行ボランティア基金、東京都共同募金会、（敬称略）

## 『網膜色素変性症と JRPS について』

---

### 【網膜色素変性症】

眼の中にある網膜という薄い多層構造の膜が侵される進行性の疾患で、まず夜盲の症状が現れ、進行とともに徐々に視野が狭くなっていき、更に進行すると視力の低下や、色覚の異常が起こり失明状態に陥ってしまうケースもある眼の難病。

### 【日本網膜色素変性症協会（略称：JRPS）】

網膜色素変性症に対する治療法の早期確立ならびに QOL（生活の質）の向上を 2 大目標として、患者・学術ならびに支援者が一体となって、様々な活動を展開してきています。1994（平成 6）年設立。会員数 4 千人（2011 年 9 月現在）。